

7月24日(日)発行

当日の感動をすぐお届け!!

特別協賛: TOSHIBA Leading Innovation >>>

ほぼ

日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza



開幕!

ノット×東響、充実のオープニング

7月23日(土) 東京交響楽団オープニングコンサート 撮影：青柳聡



マエストロ：ジョナサン・ノット 終演後、サインをいただきました。

7/23 東京交響楽団

お客様の声から♪

オープニングファンファーレを STAFF が指揮! ? と思ったらノットさんだった(笑)(55歳・会社員) / ノット監督と東響メンバーの皆さんに世界旅行に連れて行っていただきました。都会も田舎も素的な風景が浮かんで来て、素晴らしいひとときでした!(会社員・ぜぶら) / いろいろなりズムやテンポの曲が聴けて楽しかったです。(小6・佐々木みゆ) / 今日から毎日のようにコンサートがあると思うと、仕事もはかどり、楽しみです。ここに来るために、仕事がんばります。(50歳・会社員・川崎のYoko) / アイヴスのような「空間音楽」の先駆けは、やはりライブで聴いてその魅力が分かります。(60歳・遊び人・ヨネちゃん) / なかなか生で聴けない意欲的なプログラムで期待通り!! (56歳・会社員・オレンジねこ) / 田園を聴いてこんなにも感動をしたのは初めてです! 洗練されて、繊細で、少し儂く、美しい田園でした!(30代・医療・みい)

すごしやすい天候の中、今年も恒例のフェスタサマーミュージックが開幕した。先陣を切ったのはもちろん東京交響楽団、指揮はこれがフェスタ初登場となる同響音楽監督ジョナサン・ノットである。オープニング・コンサートに彼が用意したプログラムは、前半をヴィラ＝ロボスとアイヴズ、後半にベートーヴェンという、ノットならではの凝ったセット。そこに流れるテーマは、「風景」や風景に喚起されたイメージの描写、あるいは20世紀と19世紀/アメリカ大陸とヨーロッパ大陸などの対比といったところだろうか。

東響にとって初演かもしれないヴィラ＝ロボスの《ニューヨーク・スカイライン・メロディ》は、きわめてシンプルな構成だが、そ

の分、音色を活かしてやや不可思議な世界を描く。続くアイヴズ《ニューイングランドの3つの場所》(シンクレア補筆の第4ヴァージョン)は対照的にリズムや旋律が複雑に入り組んだ作品だが、ノットの着実な手綱で、精緻な演奏が繰り広げられた。さらに、例えば華やかなマーチの第2楽章では、途中に現れるドルチェやアンダンテ部でやわらかな音色や神秘的なニュアンスを巧みに表現するなど、作品の多面的なキャラクターを鮮やかに描き分けていた。

後半は一転、名曲中の名曲、ベートーヴェンの田園交響曲。テンポこそオーソドックスながら、弱音とバランスに神経を配り、また随所でさりげなくフレージングやアゴーギクに独特のア

イディアを加えて、一瞬たりとも音楽をルーティンに扱わない。音価や音と音とのつながりを考慮したボウイングも見てとれた。第2楽章では第2ヴァイオリン以下の3連符の連なりを少し踊るようにリズムを出したり、刻み(トレモロ)の弓の長さを長めにするなども。第3楽章は推進力のあるリズムで聴かせつつ、重くなりすぎないのもさすがだ。楽器をまたいで持続するパルス(一貫したリズムの流れ)の連なりもしっかりと重視されていた。ラストの神や自然への感謝の祈りも感動的。とても充実したコンサートで、今年のフェスタの幸先のよいスタートとなった。

松本 学(音楽評論家)

NEXT!!

フェスタサマーミュージック

明日はどう聴く?
20代応援団がナビゲート!

7月25日(月) 19:00 開演
新日本フィルハーモニー交響楽団

シェフ上岡敏之の
スペイン・ラプソディー

全てスペイン絡みのプログラムなのですが(アルルの女は舞台こそ違えど、物語に闘牛が絡みます)、よくよく作曲家名を見てもとスペイン人作曲家は一人もいないのです! この国はヨーロッパの中でもイスラム文化が色濃く出ており、異国情緒への憧れゆえに作曲家達はスペインを題材にした名作を書き上げました。9月から新音楽監督となる上岡が、理想的な桃源郷としてのスペインを色彩豊かで熱狂的に、時には哀愁豊かに描き出してくれることでしょうか。(小室敬幸 作曲/音楽学)

ドイツを基盤に、オペラ・シンフォニーの両輪で堅実な活動を続けるマエストロ・上岡敏之。彼が9月から音楽監督に就任する新日本フィルとの組み合わせがいち早くサマーミュージックで実演。3月の定期演奏会ではシューベルト×マーラーの「1番」の斬新な解釈で魅了した彼ら、今回披露するのはオール・フレンチ・プログラム。一見名曲選のようで、ラヴェルの「スペイン狂詩曲」に強い影響を与えたシャブリエ「スペイン」とリムスキー＝コルサコフ「スペイン奇想曲」を組み合わせるなど、音楽史的な洞察も深いマエストロの個性が滲み出る。フランス音楽から透かして見るスペインの妖しい抒情、沸き立つ祝祭—これが上岡×NJP流のサマーミュージックだ。(平岡拓也 大学生/音楽プロガー)

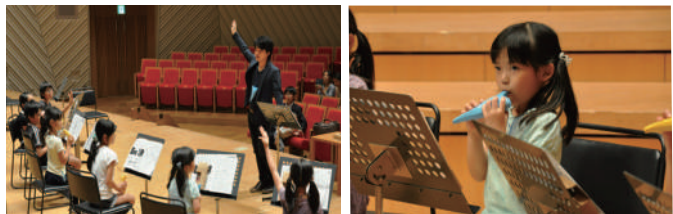


上岡敏之 ©武藤章

ミュージアでわくわくしよう！ こどもからおとなまで、コミュニティ・プログラムで音楽とつながる



5月24日に行われたオカリナワークショップの様子。(講師：茨木智博)



スタート以来大好評の「わくわくミュージア」。今年度はすでにオカリナのレッスン&発表会を実施しました。小学生から大人まで集まったこの日は、知らない人同士で一緒にレッスン&練習。発表会では息の合った演奏が披露されました。

ミュージアはこうしたコミュニティ・プログラムを通して「自分の居場所がある」としてもらえよう地域コミュニティの拠点を目指しています。オカリナワークショップでも、一期一会の中で発表会を作り上げた思い出は、きっと残っていると信じています。

今後の企画も盛りだくさん！7/28(木)には、Jr.プロデューサーが作ってきた公演がよい

いよ開催。8/5(金)、6(土)には、次世代楽器KAGURAのワークショップ(7/31申込締切)、8/19(金)には、オルガンの音を楽しむワークショップ(募集は締切りました)、そして秋には「わたしもぼくもオルガニスト！」(10/3申込締切)がスタート。聴く楽しみを探る「音のシャベリ場」も開催予定です。

(事業課も)

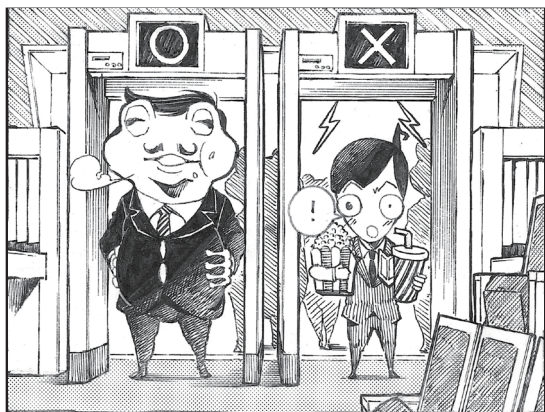


コンサート ゴアーズへの道 The Road to becoming a Concertgoer

第2回
持ち込まないのが
大人の流儀

画：井上孝志
文：ミュージアスタッフ

平日夜のコンサート。職場を出るのがギリギリで食事をとれず、ホールに着いたらおなかがいちゃった。——はい、よくあります。ですが、映画館とは違い客席内の飲食はご遠慮いただいています。ロビーやドリンクコーナーでは飲食できますので、休憩時間にご利用ください。さっと食べられ腹持ちのよい軽食を持参される方もいらしゃいます。ちなみに、演奏中におなかを鳴りそうになったら、ちょっと背筋を伸ばしてみてください。ゴロゴロ音が小さくなる裏技です。そして終演後はパートナーショップでおトクにお食事を！



パートナーショップのご紹介
エンジョイ!
川崎!!
Enjoy Kawasaki

越後名物 そばと地酒
越後 叶家

ラゾーナ川崎プラザ4階・パートナーショップリストP.19

サマ-ミュージア特典
チケット提示で10%OFF
※詳細はパートナーショップリストをご覧ください

『最響の夏』をしっかり楽しみたい!という方には、夏の疲れを吹き飛ばす、ビタミン豊富で疲労回復効果もある「そば」がおススメ。『越後叶家』さんで、夏にぴったりのお食事をどうぞ!夏の代表食材「鱧」は梅肉ソースでいただく、さっぱりした中にもうまみが口いっぱいに広がります。つるつるとした喉ごし、コシと味わいは、さすが「布のり」入りそばの実力です。野沢菜をはじめ、新潟の

郷土料理や豊富な地酒もメニューに並びます。コンサートを思い出しながらのお食事でも、ゆったりとした時間が過ごせそうです。(Y.O)



友の会キャンペーン実施中

新規入会でもらえる!

サマ-ミュージア期間中に友の会入会受付カウンターで入会された方にサマ-ミュージアオリジナルチケットホルダーをプレゼント!

(~8月11日まで)
年会費3,000円でお得な6つの特典♪

詳しくは友の会入会窓口(ホール歓喜の広場特設カウンターもしくは5階受付)まで

現在会員の方に
“最響の水”が当たる!

サマ-ミュージア公演のチケットを事前にご購入の友の会会員様、各公演抽選で20名様に“最響の水”をプレゼント!(当選者の座席番号を当日ロビーに掲示いたします。)

当日の感動をすぐお届け!!



バックナンバーは
ミュージアホームページでも公開中!
http://www.kawasaki-sym-hall.jp/

音楽雑貨専門店
プレリユード
店長

スタ
タ
ッ
フ
日
誌